

画像読影レポート見落としと患者対応漏れを防止する診療アルゴリズムの機械学習

1. 研究の対象

2009 年 12 月 1 日から **2024 年 03 月 31 日** までに大阪大学医学部附属病院に入院または外来通院した 20 歳以上のすべての患者さん

2. 研究目的・方法

放射線画像検査は、何らかの病気を疑うなど、診療科の医師が具体的な目的をもって行い、読影医は画像の読影結果をレポートにまとめます。時には、目的とした病気に加えて、偶然他の病気が見つかることもありますし、内容によっては追加の検査や処置などの医療措置が必要になることもあります。このように画像検査の読影レポートは重要な役割を持ちます。こうした重要なことを見逃さないために多くの病院ではいろいろな対策が取られていますが、検査の数は非常に多く、より効率的なチェックが必要とされています。

この研究では、読影レポートを含む電子診療記録情報を利用し、機械学習の手法を用いることで、様々な観点で診療情報を解析し、医療安全の担保を目指します。こうした研究は、今後のより良い医療のために役立つものと考えられます。

研究期間は、研究機関の長の許可日～2027 年 12 月 21 日までを予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

電子カルテから、患者さん放射線画像検査レポート、診察記事、内服薬や注射薬の処方歴、各種検査の実施歴、手術や処置の実施歴などを収集し、研究に用います。

4. 外部への試料・情報の提供

この研究で使うデータを外部に持ち出すことは予定していません。

5. 研究の資金源と利益相反について

本研究は、診療業務用アプリケーションの開発会社である富士フイルム株式会社との共同研究として、同社から研究に必要な資金提供を受けて実施します。

研究を行うときにその研究を行う組織あるいは個人（以下「研究者」という。）が特定の企業から研究費・資金などの提供を受けていると、その企業に有利となるように研究者が研究結果を改ざんあるいは解釈したり、また都合の悪い研究結果を無視するのではないかという疑いが生じます。（こうした状態を「利益相反」といいます。）

この研究における利益相反は、大阪大学大学院医学系研究科・医学部臨床研究利益相反審査委員会による審査を受け、承認を得ています。我々はその審査結果に基づき、利益相反を適正に管理して研究を行います。

6. 研究組織

大阪大学大学院医学系研究科 医療情報学

研究責任者：武田理宏

富士フイルム株式会社/富士フイルムメディカルITソリューションズ株式会社

研究責任者：小野田浩平

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒565-0871 吹田市山田丘2-2

大阪大学大学院医学系研究科 医療情報学 特任助教 小西正三

TEL: 06-6879-5900

研究責任者：

大阪大学大学院医学系研究科 医療情報学 教授 武田理宏

研究代表者：

大阪大学大学院医学系研究科 医療情報学 教授 武田理宏